

いつか来るその日に備えて 災害に強いまち川口へ



近年、日本では東日本大震災や熊本地震など大災害が発生しており、日常を一変させる災害はいつ起きてもおかしくありません。

大規模災害発生時、行政が行う被災者支援“公助”には限界があります。自分で自分の命を守る“自助”、家族や地域で助け合う“共助”の重要性を認識し、災害に備えましょう。

自助

自分で自分の命を守ること

災害時に支援が届くまで、少なくとも3日かかると言われています。断水、停電が予想される中、乗り切るために役立つ備蓄品を紹介します。

●LEDランタン

ろうそくは、余震が発生したときに倒れて火災になる危険があります。倒れても火災発生のおそれのないLEDランタンがお勧めです。

【備蓄目安：リビング・キッチン・トイレ用に最低3個】

●口腔ケア用ウェットティッシュ

歯磨きが長期間できず口からウイルスが体内に入り、肺炎などの病気になるケースがあります。

【備蓄目安：ボトルタイプ（100枚）を数本】

●ラップ

食器に被せることで洗浄水を節約できるだけでなく、応急的に包帯の代用品としても活用できます。

●携帯トイレ

断水や配水管の破損により、トイレが流せなくなることが想定されます。扱いやすさや吸収、凝固、におい対策の機能で選びましょう。

【備蓄目安：1人あたり7枚程度】

●非常食（ローリングストック法の活用）

最近では、1年程度の賞味期限のものを食べたら買い足すという備蓄方法：「ローリングストック法」が推奨されています。選べる非常食の幅を広げ、無理なく備蓄をしましょう。

【備蓄目安：4日（12食）分】



12食分の非常食を備蓄し、1カ月に1回定期的に食べる。食べたら、1食分を買い足して補填する。

グリーンビュー第3川口町会

名誉町会長 秋山 清一さん



自主防災組織の優れた活動により、平成28年10月に自主防災組織埼玉県知事賞を受賞したグリーンビュー第3川口町会の秋山さんにお話を聞きました。

活動内容

もともと防災に力を入れている町会でしたが、東日本大震災でマンション設備に被害を受けたことがきっかけで、町会として本格的な防災活動を始めました。

要配慮者名簿や災害時行動マニュアルの作成をはじめ、地域に開かれた防災井戸の設置など近隣団体との連携も積極的に進めています。



地域コミュニティの強化

阪神淡路大震災以降、行政による公助の限界と共助の重要性が認識されるようになりました。しかし、地域の防災活動への参加はなかなかハードルが高いという意見もあります。そこで当町会では、花火大会やもちつきなどの町会行事の運営を通じ、テント設営や発電機の動かし方を学ぶなど、防災訓練に参加しやすい雰囲気を作ることを心掛けています。

地域コミュニティを強化していくことはすぐにはできません。向こう三軒両隣など身近な人間関係を築いていくことが、結果的に地域の防災力の向上につながると考えています。

行政による支援、救助のこと

防災課

主査 細井 和樹さん



市では公助としての取り組みだけでなく、自助・共助を推進するさまざまな活動も実施しています。その中のいくつかを紹介いたします。

ハザードマップ

市内に被害を及ぼすと想定される地震や洪水の被害予測、避難所の位置などの情報が確認できるハザードマップを市内の公共施設で無料配布しています。また、より総合的な防災情報をまとめた「防災ハ



ンドブック」を今年度、市内各世帯へ配布する予定です。

防災出前講座

今すぐ家庭で実践可能な防災対策を紹介しています。各種団体、町会・自治会単位で10人以上から申し込むことができます。

川口市総合防災訓練

毎年度、地区ごとに行っている総合的な防災訓練で、災害時の避難所施設の使用方法や備蓄品の利用方法などを中心に訓練を実施しています。今年度は新郷地区の各小・中学校で開催します。



日時 10月29日(日)
8時30分～12時

場所 新郷地区の小・中学校

8時30分に防災行政無線で放送します。